

琉球大学学術リポジトリ

さとうきびのワタアブラムシ（メンガ虫）とその防除

メタデータ	言語: 出版者: 琉球大学農家政学部 公開日: 2011-05-20 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 高良, 鉄夫, Takara, Tetsuo メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/19834

さとうきびのワタアブラムシと

その防除

琉球列島にすんでいるさとうきびの害虫の種類はおよそ百二十種余、その中特に加害の著しいもの一つとしてかんしょワタアブラムシがあげられる。このワタアブラムシによる損害は全琉でおよそ年間一億円と推定されているから実に大したものである。この害虫は熱帯、亜熱帯、温帯に広く分布し、何れの地方でも重要害虫として知られている。

成虫、幼虫(子虫)ともにさとうきびの葉裏から汁を吸取するもので、従来しばしば大発生したことがあるが、今年には特にいちじるしいようで、各地にその異常発生が見られる。発生のいちじるしいところでは一葉に三、五〇〇余匹も群棲(ぐんせい)しており、又スズ病も併発して致命的加害をうけている。天候が続き雨が少いとそのはんしょくもいちじるしく、場所によつては枯死するところもあろう。

被害の程度は殖付時期、品種、場所によつて異つてゐるが、特に夏植の二七二五P O Jに多く、又南面の傾斜地、くぼ地ではN C O三一〇にも同様に発生している。一般に風通しの悪いところでは成熟甘蔗にも発生しているが、大体南面の傾斜地、くぼ地の夏植がその発生源となつてゐるようである。

ではどのようにして防除したらよいでしょうか。まず発生の着目点として下葉を切り取り、次に述べる農薬の何れかをふ



んむきでさんぷする。(切り去つた被害葉はさきびばたけから離れたところでやきすてる)

一、手持ちのリユサンニコチンがあるなら水一斗(二六立)にリユサンニコチン四匁(一五グラム)一五匁(一九グラム)、石ケン二〇匁(七五グラム)をとかしてさんぷする。これは被害がなくて安全であるが比較的高価で入手し難い。

一、B H C(和製)を水一斗に一五匁(五六グラム)とかしてさんぷする。この薬は比較的安く入手しやすいが、ウリ類には葉害があるので、ウリ畑の近くでは注意しなければならない。

一、テツブ製の二、〇〇〇倍液をさんぷする。この薬はリユサンニコチンに比べてはるかに葉効の高いもので、およそリユサンニコチンの数倍のききめがある。しかしながら人畜にも有毒なので取扱いに注意しなければならない。又ウリ類にも葉害が起るので、ウリ畑の近くでは注意してさんぷするのと。

一、マラソン乳製の二、〇〇〇倍液をさんぷする。この薬はテツブ剤に比べて人畜に対する毒性は少いが、原液の取扱いはやはり注意した方がよい。

何れのやくざいも多少なりとも人畜に対する毒性はあるので、薬品に添付された注意書をよく読んで頂きたい。なおところによつては天敵(てんてき)オオテントウムシが活動しているので、そのようなところではオオテントウムシをひろい集めて他へはなしがいし、その後にかくざいさんぷをする。

(高良 鉄夫)

写真はワタアブラムシの害を受けているサトウキビで

真中の白いものがワタアブラムシ。

周囲の葉は枯れかかっている。